



令和元年 12 月 4 日
東京湾再生官民連携フォーラム

未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた、 東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する提案

1. 私たちが目指す理想の姿

- ・東京湾が、日本が誇るべき自然・文化・経済の財産として流域内約 3,000 万人の人々に認識され、その再生が社会的な文化となる。
- ・東京湾の魅力を知る機会に恵まれ、東京湾が市民生活を豊かにする身近な海として愛され、その歴史が文化資源となる。
- ・東京湾の歴史や環境について学び、東京湾の再生と保全に参加する機会が広く提供される。

東京湾は、江戸時代から世界最大の大都市圏で、“江戸前”という日本を代表する文化を生んだ人間生活と深い関係のある内湾である。しかし、近年の沿岸の大規模な海岸の埋め立てと都市化による生物生息場の消失、水質の悪化で生態系が劣化し、漁業の継続も厳しい状況である。沿岸住民と東京湾を結びつけたヨシ原や干潟が広がる海岸は、埋め立てでほとんどが消失し、市民にとって身近な海であった東京湾は遠い存在となっている。

開発が進んだ東京湾だが、湾岸には野鳥観察や干潟学習、水族館、漁業を含む歴史文化を紹介する博物館や観察施設等の東京湾関連施設があり、湾の環境と魅力を紹介する貴重な役割を担っている。東京湾の恵みのワイズユースに関する普及啓発活動の促進のためにこれらの施設が果たしてきた役割は大きい。これらをさらに活用して、東京湾の恵みの社会的享受を推進する場として市民と東京湾を結びつけ、生態系の保全再生を促進する活動への参加を受け入れる拠点「東京湾の窓施設」としてさらに発展する可能性を持っている。

しかし、現状ではこれらの施設は各自治体のもとに個々に運営されているのみで、東京湾の保全のために行政区分を超えた施設の連携やネットワークはない。この状況を打開する試みとして「東京湾の窓 PT」による“東京湾スタンプラリー”の例があるが、行政との連携は始まったばかりでボランティアな運営に頼り、持続性は乏しい。

本政策提案は、既存の「東京湾の窓施設」の活用による東京湾の再生と、東京湾と流域市民との関係の再構築に向けて、下記の提案を東京湾再生推進会議および関連機関に行う。

《提案》

- <1> 海洋教育・環境教育の場として東京湾・「東京湾の窓施設」の利活用を活発にするための教育分野との連携
- <2> 「東京湾の窓施設」の横断的活動を活発化する施策の推進
- <3> 「東京湾の窓施設」の機能・役割等について認識の共有を図る研修等の実施

2. 「東京湾の窓施設」が持つ社会資源としての可能性

私たちが目指す理想を実現するには、さまざまな機能を持ち、活動の拠点となりうる東京湾関連施設の活用が鍵となる。私たちはこれらの施設を「東京湾の窓施設」と呼んでいる。窓とは、“開かれたきっかけ（東京湾をのぞきこむ窓）”をイメージしたもので、大都市圏・東京湾流域の市民と東京湾を結びつける拠点となる施設を“窓”として、機能強化を図る方策をこれまで検討してきた。東京湾の窓PT（以下、窓PT）が考える「東京湾の窓施設」を例示する（資料1参照）。東京湾を体験し学ぶ場として海上公園や海浜公園、釣り桟橋、マリナー等もあるが、ここではインタープリターや学芸員等がいる施設をリスト化した。

現在、これらの施設は地元の各自治体によってそれぞれの設置目的のもとに運営されているが、“東京湾”という共通の言葉のもとに、東京湾再生推進会議をはじめ、東京湾岸自治体環境保全会議、行政職員、施設職員、教育機関（教育委員会、学校）等各関係者が枠組みを超えて連携し、「東京湾の窓施設」を活用していく必要がある。窓PTでは「東京湾大感謝祭」への出展や「東京湾スタンプラリー」、「東京湾環境学習フォーラム」、「現場観察会」等の実践と経験、PT内での議論や検討から、以下の様々な可能性を見出すことできた。

20箇所以上ある「東京湾の窓施設」は、インタープリターや学芸員等の専門スタッフを配置している。施設には年間数万人から数十万人の利用者があり、全体では百万人を超える規模となる。専門スタッフは年間を通じて様々な体験・学習プログラムを提供している。また、施設に隣接する、埋め立てを免れた干潟や施設内に造成された干潟等は鳥類や魚類、底生生物の生息場となっており、一部の施設ではスタッフが定期的に生物調査を市民参加で実施している。これらの活動は、市民が東京湾に親しみ、楽しみながら市民参加型の東京湾のモニタリング活動および保全活動に参加する機会として重要であり、「東京湾の窓施設」として位置づけることによって、今後、広く提供される可能性がある。

加えて、「東京湾の窓施設」は、東京湾再生官民連携フォーラムの各PTの活動成果の発表や東京湾再生推進会議の取組みのアピールを行う場として活用できる。これらの主体の連携促進だけでなく、市民に対する情報発信や参加の機会の提供によって東京湾再生に向けた活動をより活発にする効果が十分に期待できる。

さらに、「東京湾の窓施設」は、持続可能な開発目標（SDGs）に直接・間接に関係した活動を既に実施しており、提案の実現によってさらに貢献度は増すと期待される。国連では、海洋保全のために2021年から「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」を定めており、官民の連携によって保全と再生を目指す東京湾が果たす役割は大きい。

本提案の趣旨は、以上の「東京湾の窓施設」が持つ可能性を引き出すために、関係者や施設等の連携や協働を促進するものである。



3. 提案内容とその理由

<1> 海洋教育・環境教育の場として東京湾・「東京湾の窓施設」の利活用を活発にするための教育分野との連携

東京湾流域には日本の全人口の約4分の1が生活し、大都市圏に隣接する東京湾であるが、沿岸に点在する自然・半自然的環境、および環境や文化、歴史を学習できる施設や場は、沿岸流域に暮らす子どもたちにとって貴重である。

2007年の海洋基本法制定後、海洋教育の重要性が認識され、2016年に安倍晋三内閣総理大臣は、海の日メッセージとして、海洋教育の取り組みを強化していくために海洋教育推進組織「日本学びの海プラットフォーム」を立ち上げ、2025年までに全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指すと述べている。また、改訂学習指導要領が2020年度から全国の小学校でスタートし、学習フィールドとして東京湾の湿地がさらに活用される可能性が高まる。「東京湾の窓施設」の多くは、東京湾という財産を活用し、体験的な教育活動を実施してきており、地域と関わりの深い既存の施設はこれまでの知識や経験を生かして、学校教育に貢献することができる。このことは東京湾保全のこれからを担う人材の育成にも資するものである。

そこで海洋教育・環境教育の場として東京湾の利活用を活発にし、教育活動を通じて東京湾をさらに一般化するために教育分野との連携を図ることを提案する。たとえば、東京湾の学習・教育活動の充実に向け、東京湾再生会議への「海洋教育・人材育成分科会」の設置や文部科学省の参加、「東京湾岸自治体保全会議」と各自治体の教育委員会との連携等が考えられる。教育分野における「東京湾の窓施設」の連携とその活用についての検討を要望する。

<2> 「東京湾の窓施設」の横断的活動を活性化する施策の推進

東京湾の各地先の海辺環境や地域の歴史を踏まえて設置されている「東京湾の窓施設」は、それぞれに設置目的があり、扱うテーマも特色がある。一方で、東京湾の自然や環境に関する情報発信や広報活動、東京湾の自然再生や保全、普及啓発の取り組み等、共通する役割や機能も少なくない。

東京湾は一つの水面であり、多様な利用や保全が望ましい姿として実現されるためには、東京湾の様々な側面を知り、認識を共有していくことが重要である。このため、各「東京湾の窓施設」が持つ知見や情報を共有し、相互に施設の役割を認め合い、東京湾の保全や再生を目指すために連携・協働していくことが重要となる。

現在、窓PTが取組んでいる“東京湾スタンプラリー”の運営は、窓PTメンバーや各施設の自主的な努力に頼っており、横断的取組みを継続的に行なっていけるよう、行政間の連携—例えば事務局の設置、東京湾岸自治体環境保全会議との共同開催等を検討いただきたい。

ネットワークが機能すると、東京湾の普及啓発の推進のほかに、各施設で取り扱う生物や環境に関する情報収集、調査結果の取りまとめや発信等について横断的活動が盛んになると考えられる。各施設に付属する野外現場では、人為的あるいは自然的な要因により環境や生息する生物の状況は時間とともに変化しており、「東京湾の窓施設」を東京湾のモニタリングの拠点として活用することができる。

なお、東京湾再生官民連携フォーラムで検討している「東京湾の日」の制定については、普及啓発活動の促進と参加・行動の機会の提供を行う「東京湾の窓施設」に対して“東京湾”の共通認識化とすべての関係者の協働を図る取組みとして期待したい。窓PTとして、「東京湾の日」の制定に賛意を表すとともにその普及に協力していく。

<3>「東京湾の窓施設」の機能・役割等について認識の共有を図る研修等の実施

より多くの沿岸・流域の市民が「東京湾の窓施設」を訪れ、東京湾を知り、親しむためには環境や教育に関して専門的なスキルを持つ人材が必要であり、東京湾の保全に向けて施設のネットワークを強化するために、以下の施策の検討を要望する。

施設職員や自治体の施設担当者が、東京湾の自然、地域との関わりの歴史と現状、施設の機能や役割について学び、共有することが重要である。このため、スキルアップのための研修会の実施について検討いただきたい。また、施設運営に関しては、監督的立場にある自治体職員は、市民が自然環境と直接触れあいながら学習できるよう、現場体験を安全かつ効率的に行える施設や設備について理解し、その上でこれらの設置や改善が求められる。

以上の行政間の連携によって、施設職員および自治体職員は、施設の設置目的とそれに沿った事業を実施するため、東京湾の環境や生態系、歴史性等湾全体の特性について流域を含む広い視野を持ち、環境教育や情報発信、人材育成等で施設の社会的貢献につなげることができる。

以上



資料 1

「東京湾の窓施設」の例（2019年10月現在）

名称	所在地
1 観音崎自然博物館 ※	神奈川県横須賀市
2 横須賀市自然・人文博物館	神奈川県横須賀市
3 水防センター大師河原干潟館 ※	神奈川県川崎市
4 八景島シーパラダイス ※	神奈川県横浜市
5 八聖殿郷土資料館	神奈川県横浜市
6 葛西臨海公園鳥類園ウォッチングセンター ※	東京都江戸川区
7 葛西臨海水族園 ※	東京都江戸川区
8 江戸川区こども未来館	東京都江戸川区
9 豊海おさかなミュージアム ※	東京都中央区
10 しながわ水族館 ※	東京都品川区
11 船の科学館	東京都品川区
12 東京港野鳥公園 ※	東京都大田区
13 大森海苔のふるさと館/大森ふるさとの浜辺公園 ※	東京都大田区
14 行徳野鳥観察舎/行徳鳥獣保護区・行徳近郊緑地保全区域 ※	千葉県市川市
15 浦安市郷土博物館 ※	千葉県浦安市
16 谷津干潟自然観察センター/谷津干潟公園 ※	千葉県習志野市
17 ふなばし三番瀬環境学習館/三番瀬海浜公園 ※	千葉県船橋市
18 みなとオアシス“渚の駅”たてやま/渚の博物館（館山市立博物館分館）※	千葉県館山市
19 君津市漁業資料館	千葉県君津市
20 南房総市大房岬自然の家	千葉県南房総市
21 富津埋立記念館	千葉県富津市

※ 2019年度東京湾スタンプラリー参加した機関



資料2

「東京湾の窓プロジェクトチーム (PT)」の紹介

東京湾再生官民連携フォーラムのもとに設置された東京湾の窓 PT (以下、窓 PT) は以下に述べる現状認識と課題のもと、自然観察施設、海上公園、歴史博物館等複数の「東京湾の窓施設」関係者と、大学、市民団体、国交省等の関係者により 2016 年 3 月に発足し、東京湾の再生と保全を目指す普及啓発と参加・行動の機会の提供を進展させるための“窓”の潜在的役割とその社会的役割の実行に対する課題分析に取り組んできた。

窓 PT は以下の現状認識・課題をもとに活動してきている。

●東京湾の窓 PT の現状認識 (窓 PT の新規設立要望書より引用)

誰もが東京湾に魅力を感じ、東京湾の環境の恵みを受け、豊かで四季を感じられる東京湾は市民や生活者にとって重要である。しかし、高度に開発が進んだ東京湾では、東京湾を身近な海として感じる機会は限られている。また、多くの人々が東京湾の生態系サービス (例えば、都心のヒートアイランド現象を緩和する東京湾からの海風等) の恩恵を受けているにもかかわらず、その価値があまりよく知られていないのも実状である。(普及啓発活動の推進の課題)

東京湾の再生は、湾に流入する河川や下水処理水の水質の改善のための処理の高度化や貧酸素水塊、青潮の解消のための深場の埋め戻し等を行政が実施している。そして、市民や企業等民間の多様な主体が東京湾の再生のために連携し実行することが求められている。東京湾流域の住民はその恩恵を受けるとともに、保全・再生のために個人個人の参加や行動が課題である。(参加・行動の推進の課題)

窓 PT は、第一期行動計画で明らかになった、“活動や行動の輪を広げる工夫”を自分たちの持つリソースを使い、実行し、東京湾再生のために情報共有を図り、あたらしい仕掛けを作り、同湾で活動している組織・団体との連携を図ることが課題と考える。この取り組みは、東京湾再生のための行動計画(第二期)における、以下の施策を拡充し具体化するものである。

〈海域における環境改善のための施策〉

多様な者との連携・協働による海における環境教育や体験学習、マリンレジャー、関連イベント、「江戸前」をはじめ多様で豊かな恵みの啓発や情報発信等の機会の創出を推進するとともに、市民が海に親しみやすい環境の整備を図る。(東京湾再生のための行動計画(第二期)より)

東京の窓 PT のこれまでの取り組み

- ・2016 年 10 月 「東京湾大感謝祭」 出展
- ・2017 年 2 月 「東京湾環境学習フォーラム」 開催に協力
- ・2017 年 6 月 「東京湾・公園めぐりスタンプラリー」 開催に協力
- ・2017 年 9 月 「行徳鳥獣保護区で生物観察！」 撮影
- ・2017 年 10 月 「東京湾大感謝祭」 出展
- ・2018 年 8 月 「東京湾ぐるっとスタンプラリー」 開催
- ・2018 年 10 月 「東京湾大感謝祭」 出展
- ・2019 年 8 月 「東京湾ぐるっとスタンプラリー」 開催